

俳句

大津俳句会

引き締まる大気に追はれ冬支度

井芹眞一郎

秋耕やほぐれし大地ふつくらと

秋山 恵子

青空を少し揺らして零余子とる

市原 初女

吹きだまり掃いても枯葉次々と

大塚喜久子

離れ住む孫の迎へし七五三

佐賀 久子

初紅葉落ちて階キマヘシかけ下りる

松尾 昭雅

野紺菊無縁仏に供へけり

岡崎 浩子

乗る風を吟味してゐる草の絮

森山美穂子

街中に残る一枚稲熟るる

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

マリオネットの指に秋の陽うずくまる

田上 公代

コロナ鬱打ち消す秋の大落暉

木庭 杏子

芳一の語り聞こえる夜半の月

上杉 波

草の絮わたほどけ小鬼ら踊り出す

矢嶋 道子

栗剥けばボンと飛び出す裸の子

水野 春子

この橋を渡れば明日来る秋がくる

梅木トキエ

秋風や球児の執念慕を閉ず

塚本 洋子

まん中はさびしい蕎麦の花畑

榮田しのぶ

折り目折り目のずれて歪んだ秋の函

志賀 孝子

短歌

大津短歌会

山あいの棚田の畦の赤いはな彼岸花にも
秋雨の降る

鞍 岳志

仕手かして日常茶飯事今日も又生きる証
しの汚点と成すか

管野 静

車にて楽々峠トンネル越ゆ徒歩の古人を
偲びながらに

豊岡ミツル

寂しくも無事に暮れゆく今日の日を何と
祈らん赤き日輪

吉永 恵子

恐竜の首思わするつる草の先端があら
向こうを向いた

坂本 果子

八十段ようやく登り振り返る秋は深かま
り人ぞ愛しき

小平 善行